



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町 1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<https://www.shizuokabank.co.jp/>

2021 年 5 月 12 日の決算発表以降いただいた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	マネックスグループの株式売却について、今後もさらに持分比率を下げる方針はないか。また、同社やマネーフォワードなど、過去の出資先で含み益のある先について、今のうちに売却を行い、将来のリスク低減につながる取組みに活かす考えはあるか
A1	マネックスグループが株主還元として自己株式取得を進める中、当行の持分比率が高くなったが、資本業務提携時の 20%程度が適当な水準とお互いに考えており、今回売却を実施した。このため、追加売却により 20%以下の持分比率にすることは現状では考えていない。 マネーフォワードを含め投資先の含み益が大きくなる一方で、政策保有株式の持ち合い解消を進める中、売却可能銘柄の含み益は 3 月末時点で約 370 億円となっている。これまでも、次世代システム稼働により増加する費用は政策保有株式の売却で賄うと説明してきたが、これにより収益の下支えをしていく。このため、現時点で 2 社の含み益を積極的に活用することは考えていない
Q2	2020 年度第 4 四半期で計上した店舗減損は当初予定していたものか。2021 年度も計上する可能性はあるか
A2	店舗減損を第 4 四半期に約 29 億円実施した。これは、管理会計上の収益基準の見直し（預金の仕切りレート引き下げ）を行い、収益性の下がった 43 店舗の減損を実施したもの。低金利が長期化する中、店舗減損は地銀共通の課題となっている。当行は今回実施し、店舗減損は完了したと考えている。
Q3	第 14 次中計最終年度（2022 年度）の連結経常利益計画 800 億円に対し、2021 年度と同計画が 620 億円と乖離が大きい。どのような戦略を進め利益を上げていくのか。また、計画を修正する可能性はあるか
A3	乖離があることは事実と認識している。この要因の 1 つは与信関係費用。2021 年度は 130 億円を見込んでいるが、中計策定時は年間 70 億円の計画であり 60 億円の乖離がある。与信関係費用が巡航速度に戻ればその分増益となる。また、マーケット部門の収益も当初計画の水準まで至っていないと認識。このほか、連結ベースではグループ会社が育っているが、ストラクチャードファイナンスやイノベーション、異業種連携の分野での収益化を急ぎたい。高い目標ではあるが、今の時点ではこの目標に向けて進んでいきたいと考えている。

SHIZU-GIN



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町 1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<https://www.shizuokabank.co.jp/>

Q4	静岡・山梨アライアンス発足後、予想外だったことは。また、銀行同士の連携で相乗効果はあったのか
A4	率直な感想として、このアライアンスを締結して本当に良かったと思っている。打ち合わせをするたびに我々にとっての気づきがあり、様々なビジネスチャンスがあると感じている。テンポ良くこの取り組みを進められていることが良い意味での予想外。 化学反応の観点でもお互いに刺激しあいながら連携できており、たとえば山梨中央銀行の経費項目の水準感を知ること得られた気づきがあった。発足から 5 ヶ月間で 11 億円の収益効果を実現できたが、今後もストラクチャードファイナンスや静銀ティーマ証券等の連携施策を中心に収益を増やしていきたい。海外分野でも、同行の取引先に我々の海外ネットワークを活用してもらうことで、新しいビジネスにつなげることが期待できると思っている。 さまざまなアライアンスがあるが、日本一のアライアンスになるように進めていきたい。

Q5	ベンチャービジネス育成の時間軸は
A5	6 月にベンチャービジネスの専門部署を設立予定。現在、イノベーション推進室においてベンチャーファンドへの投資を検討しており、投資以降には人材派遣や教育を通じてベンチャー企業の資金調達（ベンチャーデット、メザニン等）の目線を理解するとともに、収益化に向けた知見を高めていきたい。 なお、ベンチャーファンドへの出資は収益だけが目的ではなく、ベンチャー企業が持つ先端テクノロジーをいかに静岡県内に還流させるかも大切な要素。既に実施している TECH BEAT Shizuoka を毎年開催するなどして、この取り組みを進めていきたい。

Q6	増配と自己株式取得の決定に至るまでの背景は
A6	コロナ禍において資本政策を控えてきたが、足元の利益水準や自己資本の状況、コロナ禍の先行き等を総合的に勘案し、今回 3 円の増配と自己株式取得を決定した。配当については、2019 年度の配当性向（32.6%）を意識し、今回の増配により 32.8% を実現した。自己株式取得については、足許の当行株価水準をふまえ実施を決めた。中長期的に株主還元率 50%以上を目指していきたい。

SHIZU-GIN



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町 1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<https://www.shizuokabank.co.jp/>

Q7	次世代システム関連費用を株式売却益でまかなう方針に変更はないか
A7	2021 年度は次世代システム関連費用として 113 億円を見込む。これをマネックスグループの株式売却による特別利益 60 億円やその他の株式売却益で賄っていく考えであり、業績予想に織り込み済み。
Q8	次世代システム稼働後、障害が発生した理由は何か。また、本当に 2025 年の崖をクリアできるような静岡銀行の強みになるのか
A8	本年 1 月 4 日の稼働後、お客さまにご迷惑をおかけするシステム障害が発生した。次世代システムは 30 年以上使っていた旧システムをベンダーチェンジを伴いながらオープン化する、非常に難易度の高いプロジェクトであったと認識している。障害発生理由として、旧システムにおけるカスタマイズの履歴がいわゆるブラックボックス化し、その一部を反映しきれなかったことが挙げられる。 1 年間を通じ、様々なイベントをこなしたところで安定稼働と言えると考えている。今後も細かな障害が発生する可能性はあるが、しっかりと乗り越えていきたい。旧システムを熟知する人材が残っている今だからこそ稼働に伴う障害を乗り越えられたと考えており、2025 年より前の、今の時点で次世代システムへの更改を行い、本当に良かったというのが偽らざる本心。 なお、安定稼働後には、将来像として当初から描いていた、記帳・決済システムのデファクト化や、グループクラウドの活用によるグループ経営の高度化を実現したい。

以上

SHIZU-GIN